

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 九州財務局長

【提出日】 2020年2月14日

【四半期会計期間】 第24期第2四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

【会社名】 株式会社ビューティ花壇

【英訳名】 Beauty Kadan Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 三島 美佐夫

【本店の所在の場所】 熊本県熊本市南区流通団地1丁目46番地

【電話番号】 096-370-0004

【事務連絡者氏名】 取締役コーポレート本部長 田口 絹子

【最寄りの連絡場所】 熊本県熊本市南区流通団地1丁目46番地

【電話番号】 096-370-0004

【事務連絡者氏名】 取締役コーポレート本部長 田口 絹子

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第23期 第2四半期連結 累計期間	第24期 第2四半期連結 累計期間	第23期
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年12月31日	自 2019年7月1日 至 2019年12月31日	自 2018年7月1日 至 2019年6月30日
売上高 (千円)	2,953,770	2,853,160	5,874,866
経常利益又は経常損失() (千円)	12,144	40,374	30,166
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失() (千円)	14,489	34,513	5,939
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	14,501	34,462	5,972
純資産額 (千円)	546,661	509,305	555,916
総資産額 (千円)	2,486,355	2,322,405	2,176,988
1株当たり四半期(当期) 純損失() (円)	3.58	8.52	1.47
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	22.0	21.9	25.5
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	29,771	35,573	120,020
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	48,665	34,625	164,273
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	120,507	53,323	103,411
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	874,658	608,505	625,380

回次	第23期 第2四半期 連結会計期間	第24期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	3.22	6.89

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれる事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクに重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間(2019年7月1日から2019年12月31日まで)におけるわが国経済は、輸出や生産に弱さが見られたものの、企業収益や雇用環境の改善などを背景に、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方、世界の経済情勢は、米国経済を中心として回復傾向にあるものの、米中の貿易摩擦の長期化や英国のEU離脱問題に加え、中東情勢の緊迫化による地政学的リスクの高まりなどから、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは、コア事業(生花祭壇事業)での売上拡大、生花卸売事業における物流のサービス強化と高度化、管理部門の体制強化、周辺事業の水平展開等を重点目標とした、最終年度となる中期経営計画に基づき、各施策を実行してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、2,853,160千円(前年同期比3.4%減)、営業損失は、主に各事業における売上減と生花祭壇事業における人件費上昇の影響により、44,755千円(前年同期は18,285千円の損失)、経常損失は40,374千円(前年同期は12,144千円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純損失は34,513千円(前年同期は14,489千円の損失)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(生花祭壇事業)

生花祭壇事業の売上高は、1,582,558千円(前年同期比3.5%減)となりました。経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」によると、葬儀業の2019年7月から2019年11月までの売上高、取扱件数ともに増加傾向で推移しており、この数年の傾向につきましても、大都市圏を中心として葬儀単価は下落しつつも件数が増加し、売上は拡大している状況です。

このように葬儀業全体では市場は今後も拡大傾向にある一方で、特に大都市圏において「家族葬」や「密葬」、「一日葬」等葬儀の小型化とともに単価の下落傾向が続いており、地方都市におきましてもこの傾向が徐々に顕在化しております。

このような状況の中で、当事業では、強みである機動力や顧客ニーズへの対応力を活かし、売上・利益拡大を図るべく東北・中部・関西・九州エリアへ新たに拠点を展開する等、積極的に各施策を実行してまいりました。一方で、当期間につきましては、主に関東エリア並びに九州エリアにおける売上減少及び、当事業全般における人件費上昇の影響により、営業利益は160,360千円(前年同期比25.3%減)となりました。

(生花卸売事業)

生花卸売事業は、100%子会社であるマイ・サクセス株式会社において、これまで進めていた業務効率化に加え、当社グループとしての更なる競争力強化を図っておりますが、当期間におきましては、期の後半には回復したものの、前年同期比で市場相場が総じて下落傾向にあったことから販売単価への影響を受けました。

この結果、売上高は870,676千円(前年同期比5.7%減)となりました。東京都中央卸売市場「市場統計情報」(2020年1月)によると、2019年7月から2019年12月までの切花累計の取扱金額は29,340百万円(前年同期比4.2%減)、数量では426百万本(前年同期比2.9%減)と金額ベースでは横ばい、数量ベースでは減少の傾向にありました。

このような状況の中で、当事業では引き続き、従来の生花卸売事業(国内流通)と生花祭壇事業とのシナジー追求を図りながら抜本的な物流体系の改革へ向けた取り組みにも注力しており、その結果営業利益は当期間の前半における売上減の影響を受けたものの、後半において利益率が回復基調で推移したため、9,611千円(前年同期比48.5%増)となりました。

(ブライダル装花事業)

ブライダル装花事業の売上高は、160,087千円(前年同期比8.0%減)となりました。少子化による結婚件数の減少と、「ナシ婚」ともいわれる婚姻届のみの結婚の増加等により、ブライダル業界の市場規模は縮小傾向にあるものの、晩婚化による結婚式単価の上昇や、ゲストハウス・ウエディングやレストラン・ウエディング等オリジナル挙式志向の高まりを背景に新規参入企業が増加するなど、未だ大きな市場規模が保持されております。このような状況の中、同事業を請け負う連結子会社の株式会社One Flowerでは、東京・関西・九州エリアにおける顧客獲得と商圏拡大、新規出店によるリテール部門での更なる売上増、及び販管費の圧縮・効率化策を実施しており、新規顧客との取引がスタートする等、一部にその効果は出はじめたものの当期間中における収益面での顕在化には至らず、営業損失は6,313千円(前年同期は2,149千円の利益)となりました。

(その他の事業)

その他の事業は、システム開発事業、冠婚葬祭に関する企画並びにコンサルタント業務、就労継続支援事業、農業を行っております。当第2四半期連結累計期間においては、各事業ともに総じて堅調に推移したため、売上高は239,839千円(前年同期比10.7%増)、営業利益は2,139千円(前年同期は19,041千円の損失)となりました。システム開発事業は、葬儀関連会社に対する基幹システム、名札書きシステム及びモバイル端末を用いた電子カタログや建築事業者に対するCADシステムの開発を行っております。農業は、花卉の生産・販売を行っております。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ145,417千円増加し、2,322,405千円となりました。これは主に売掛金の増加によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ192,027千円増加し、1,813,099千円となりました。これは主に、短期借入金、買掛金の増加によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ46,610千円減少し、509,305千円となりました。これは主に、利益剰余金の減少によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末と比べ16,875千円減少し、608,505千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において、営業活動の結果使用した資金は35,573千円（前年同期は29,771千円の獲得）となりました。これは主に、仕入債務の増加額123,906千円を計上した一方で、税金等調整前四半期純損失51,606千円、売上債権の増加額125,450千円を計上したものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において、投資活動の結果使用した資金は34,625千円（前年同期は48,665千円の使用）となりました。これは主に、有形及び無形固定資産の取得による支出42,372千円によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において、財務活動の結果獲得した資金は53,323千円（前年同期は120,507千円の獲得）となりました。これは主に、借入金の純増77,995千円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,600,000
計	17,600,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,076,000	5,076,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株で あります。
計	5,076,000	5,076,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日		5,076,000		213,240		133,240

(5) 【大株主の状況】

2019年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の総数に 対する所有株式 数の割合(%)
株式会社MMC	熊本県熊本市中央区京町2-6-43	1,000,000	24.69
三島 美佐夫	熊本県熊本市中央区	707,400	17.47
謝花 斉	沖縄県中頭郡北中城村	229,400	5.66
能村 光勇	石川県金沢市	206,500	5.10
ビューティ花壇従業員持株会	熊本県熊本市南区流通団地1丁目46	140,400	3.47
三島 志子	熊本県熊本市中央区	120,000	2.96
畑 美智子	奈良県桜井市	84,600	2.09
株式会社河野メリクロン	徳島県美馬市脇町大字北庄562-1	68,800	1.70
尾崎 敬郎	岐阜県岐阜市	53,200	1.31
河野 通郎	徳島県美馬市	46,200	1.14
計		2,656,500	65.59

(注) 上記のほか当社所有の自己株式1,026,552株(20.22%)があります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,026,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,048,500	40,485	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 1,000	-	-
発行済株式総数	5,076,000	-	-
総株主の議決権	-	40,485	-

(注) 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式であります。

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社ビューティ花壇	熊本県熊本市南区流通団地1-46	1,026,500		1,026,500	20.22
計		1,026,500		1,026,500	20.22

(注) 上記「自己株式等」は、全て当社保有の自己株式であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年7月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	625,380	608,505
売掛金	507,702	631,903
商品	21,977	20,410
仕掛品	5,065	6,522
原材料及び貯蔵品	40,519	51,081
その他	53,060	42,009
貸倒引当金	9,901	9,667
流動資産合計	1,243,804	1,350,766
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	618,641	624,271
減価償却累計額	253,902	244,623
建物及び構築物(純額)	364,739	379,648
車両運搬具	30,819	32,547
減価償却累計額	23,910	25,964
車両運搬具(純額)	6,908	6,582
工具、器具及び備品	160,435	168,142
減価償却累計額	140,296	137,760
工具、器具及び備品(純額)	20,138	30,382
土地	232,103	221,393
建設仮勘定	8,154	-
その他	15,066	15,826
減価償却累計額	8,070	8,784
その他(純額)	6,996	7,041
有形固定資産合計	639,040	645,046
無形固定資産		
その他	34,017	26,944
無形固定資産合計	34,017	26,944
投資その他の資産		
差入保証金	52,280	52,920
繰延税金資産	22,670	44,359
保険積立金	167,593	185,053
破産更生債権等	13,210	14,460
その他	15,237	16,766
貸倒引当金	10,865	13,911
投資その他の資産合計	260,126	299,648
固定資産合計	933,184	971,639
資産合計	2,176,988	2,322,405

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	145,336	269,242
短期借入金	70,000	270,000
1年内返済予定の長期借入金	287,183	225,488
1年内償還予定の社債	7,100	7,100
未払金	88,199	56,347
未払法人税等	5,141	10,885
未払費用	115,421	117,338
賞与引当金	10,313	21,172
資産除去債務	11,650	11,650
その他	108,858	119,523
流動負債合計	849,202	1,108,748
固定負債		
社債	21,600	18,050
長期借入金	658,883	598,573
リース債務	25,507	17,440
退職給付に係る負債	54,328	56,222
資産除去債務	11,549	14,065
固定負債合計	771,869	704,351
負債合計	1,621,072	1,813,099
純資産の部		
株主資本		
資本金	213,240	213,240
資本剰余金	142,056	142,056
利益剰余金	429,274	382,612
自己株式	228,633	228,633
株主資本合計	555,936	509,274
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19	31
その他の包括利益累計額合計	19	31
純資産合計	555,916	509,305
負債純資産合計	2,176,988	2,322,405

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年7月1日 至2018年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年7月1日 至2019年12月31日)
売上高	2,953,770	2,853,160
売上原価	2,478,895	2,423,096
売上総利益	474,875	430,064
販売費及び一般管理費	1 493,160	1 474,820
営業損失()	18,285	44,755
営業外収益		
受取利息及び配当金	31	23
受取賃貸料	1,261	715
補助金収入	2,107	2,769
保険返戻金	1,700	-
為替差益	1,940	1,464
その他	5,035	4,708
営業外収益合計	12,077	9,681
営業外費用		
支払利息	5,673	4,627
その他	263	672
営業外費用合計	5,936	5,300
経常損失()	12,144	40,374
特別損失		
固定資産除売却損	98	2,671
災害による損失	-	8,559
特別損失合計	98	11,231
税金等調整前四半期純損失()	12,242	51,606
法人税、住民税及び事業税	8,133	4,596
法人税等調整額	5,886	21,689
法人税等合計	2,247	17,092
四半期純損失()	14,489	34,513
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失()	14,489	34,513

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)
四半期純損失()	14,489	34,513
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	12	51
その他の包括利益合計	12	51
四半期包括利益	14,501	34,462
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	14,501	34,462
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年7月1日 至2018年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年7月1日 至2019年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	12,242	51,606
減価償却費	24,102	29,903
災害による損失	-	8,559
のれん償却額	5,313	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	120,260	2,811
賞与引当金の増減額(は減少)	10,802	10,859
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	2,899	1,893
受取利息及び受取配当金	31	23
受取賃貸料	1,261	715
保険返戻金	1,700	-
補助金収入	2,107	2,769
支払利息	5,673	4,627
固定資産除売却損益(は益)	98	2,671
売上債権の増減額(は増加)	64,901	125,450
たな卸資産の増減額(は増加)	20,101	10,452
仕入債務の増減額(は減少)	113,874	123,906
その他	15,248	20,606
小計	54,711	26,392
利息及び配当金の受取額	14	35
賃貸料の受取額	1,261	715
補助金の受取額	2,107	2,769
災害による損失の支払額	-	8,559
利息の支払額	5,828	4,675
法人税等の支払額	22,495	4,658
法人税等の還付額	-	5,191
営業活動によるキャッシュ・フロー	29,771	35,573
投資活動によるキャッシュ・フロー		
貸付金の回収による収入	188	191
有形及び無形固定資産の取得による支出	33,222	42,372
有形及び無形固定資産の売却による収入	-	10,471
保険積立金の積立による支出	17,459	17,459
差入保証金の差入による支出	3,394	7,637
差入保証金の回収による収入	3,520	22,201
その他	1,700	20
投資活動によるキャッシュ・フロー	48,665	34,625
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	70,000	200,000
長期借入れによる収入	435,000	40,000
長期借入金の返済による支出	341,972	162,004
社債の償還による支出	3,550	3,550
配当金の支払額	28,791	12,148
その他	10,178	8,973
財務活動によるキャッシュ・フロー	120,507	53,323
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	101,613	16,875
現金及び現金同等物の期首残高	772,659	625,380
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	385	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 874,658	1 608,505

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主なものは、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)
給料手当	161,480千円	149,222千円
退職給付費用	1,190千円	-千円
賞与引当金繰入額	5,747千円	6,058千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)
現金及び預金勘定	874,658千円	608,505千円
現金及び現金同等物	874,658千円	608,505千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年9月27日 定時株主総会	普通株式	28,791	7.11	2018年6月30日	2018年9月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年9月25日 定時株主総会	普通株式	12,148	3.00	2019年6月30日	2019年9月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	生花祭壇 事業	生花卸売 事業	ブライダル装 花事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	1,640,023	923,090	173,960	2,737,074	216,695	-	2,953,770
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,972	432,064	1,281	436,318	9,437	445,756	-
計	1,642,996	1,355,154	175,242	3,173,393	226,133	445,756	2,953,770
セグメント利益 又は損失()	214,582	6,472	2,149	223,203	19,041	222,447	18,285

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発事業、不動産管理事業、冠婚葬祭に関する企画及びコンサルタント事業、就労継続支援事業並びに農業であります。
2. セグメント利益又は損失の調整額 222,447千円には、セグメント間取引消去20,669千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 243,116千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	生花祭壇 事業	生花卸売 事業	ブライダル装 花事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	1,582,558	870,676	160,087	2,613,321	239,839		2,853,160
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,693	417,470	839	422,003	17,858	439,862	
計	1,586,251	1,288,146	160,926	3,035,325	257,698	439,862	2,853,160
セグメント利益 又は損失()	160,360	9,611	6,313	163,658	2,139	210,554	44,755

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発事業、冠婚葬祭に関する企画及びコンサルタント事業、就労継続支援事業並びに農業であります。
2. セグメント利益又は損失の調整額 210,554千円には、セグメント間取引消去25,139千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 235,693千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純損失()(円)	3.58	8.52
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	14,489	34,513
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失()(千円)	14,489	34,513
普通株式の期中平均株式数(株)	4,049,448	4,049,448
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結 会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月14日

株式会社ビューティ花壇
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石原 鉄也 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石田 宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビューティ花壇の2019年7月1日から2020年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年7月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ビューティ花壇及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。